

キャラクター名 プレイヤー名

メインクラス	メイジ	Lv.1:		レベル	5
サポートクラス	セージ	Lv.1:	セージ	性別	男
称号クラス				年齢	17
種族	エルダナーン			境遇	秘密
出自 (効果)	商人			目標	好奇心

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	16	8	8	23	7	17	7
ボーナス	5	2	2	7	2	5	2
クラス修正	0	0	0	2	2	1	1
他修正							
能力値	5	2	2	9	4	6	3

HP	56
MP	72
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	マジックスタッフ	至近	-1	2	0	0	0	0	0
左手									
頭部	ハット					1			
胸部	クロスアーマー					3			
補助	マント					1			
装身具	グリモア								
能力値			2	0	2	0	6	6	10
スキル									
その他									
総計(右)			1	2					
総計(左)					2	5	6	6	10
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	4			4	+ 2 d
トラップ解除	2			2	+ 2 d
危険感知	4			4	+ 2 d
エネミー識別	9			9	+ 5 d
アイテム鑑定	9			9	+ 2 d
魔術判定	9		3	12	+ 3 d
呪歌判定	6			6	+ 2 d
錬金術判定	2			2	+ 2 d

所持品	
HPポーション×7	
ベルトポーチ	
異次元バッグ	
MPポーション×6	
ポーションホルダー	
MPポーション×5	
知識の書	
万能薬	

現在重量:	19
最大重量:	28

所持金:	3055	預金・借金:	
------	------	--------	--

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
マジックセンス	★	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 作成時に知力基本値+3								
マジシャンズマイト	5	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 魔法攻撃ダメージ+[SL]D								
リゼントメント	1	-	効果参照	-	自身	-	1/シナリオ	
効果: 魔法攻撃ダメージ+[CL×10]								
コンコードダンス	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 広範囲にエネミー識別								
ファイアボルト	1	6	Xジャー	20m	単体	魔術		
効果: 火属性[2D+10]ダメージ								
アースバレット	1	6	Xジャー	20m	単体	魔術		
効果: 地属性[2D+5]ダメージ+スリップ								
オフェンシブセンス	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 魔法攻撃ダメージ+3								
エンサイクロペディア	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: セットアップにエネミー識別								
ナチュラルヒストリー	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: エネミー判定+2D								
コンセントレイション	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 魔術判定+1D								
エグザマイン	1	-	Xジャー	-	自身	知力		
効果: 情報収集【知力】、+1D								
マジックゲイザー	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 魔法攻撃ダメージ+1D								
マジックブラスト	1	4	マイナー	-	自身	-		
効果: 対象 単体→範囲: 選択								
エルダーマジック	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: 魔術判定+3								
モンスターロア	1	-	パッシヴ	-	自身	-		
効果: エネミー識別+1D								

いつも飄々としていてつかみどころがない人物。商家のひとり息子で、口が上手い。
 ※この設定はなりゆきにより消滅しました。

基本的には好奇心旺盛でマイペース、報酬の多寡よりもそもそもそこに興味があるかどうかで行動を決める。親の商売の関係で幼少時から様々な人物と交流しており、その影響で様々なことに興味を示すようになった。現在は「世界のぜんぶを知りたい」という好奇心によって旅をしている冒険者で、エネミーや魔術などに関する幅広い知識を持っている。その好奇心から、エルダナーンには活発な言動が印象的。※活発ではないように感じます。

かつての冒険の過程でこの世界の歴史についてのなんらかの秘密の一部を知ってしまったが、そのことはあまり表には出さないほうがいいと思っている。そしてそのことがまた、彼を冒険へと駆り立てているようだ。

フィニは彼の幼馴染で、現在はルードという人物のいるギルドの一員である。彼女はウィアロに対して姉のように接するが、ウィアロはそれはそれでいいと思っている。ついでに、ギルドメンバーの愚痴を言いながらそのギルドに溶け込んでいる現状をみて、やっぱりフィニは器用なやつだな、とか思っている。

自分の興味の赴く方へ冒険をしていきたいタイプなので、これまでギルドというものに一時的に加盟することはあってもどれも長続きしなかった。第一回では半ば引張られるようにギルドに連れ込まれ、何度か逃走を企てるもうまくいかなかった。仕方がないのでとりあえずこの依頼を片付けば、この場限りであろうこのギルドから解放されるだろうと思っている。

→二話。ウィアロは解放されなかった。解放されなかった。(大事なことなので2回) フィニに巻き込まれるのは日常茶飯事で、実際前回もウィロウはフィニに振り回されていたわけだが、今回はパーティーメンバーも巻き込むことになってしまって大変申し訳ないと思っている。さらに今後もこの街にとどまっている限りフィニの行動にパーティーごと巻き込まれることが考えられるので、迷惑をかけないようにパーティーを抜けようかと考えている。

→三話。ウィアロは一大決心をしたらしい。なぜいきなり決心をするようになったのかはよくわからない。まあ何かあったんでしょう(遠い目)。そんなわけで今回はわりと素直だった。今回のセッションで行った王立図書館に興味があり、また本を探しに来たいと思っている。とりあえずあの騎士に化けてた妖魔がなにか調べないと。思い出せそうなのに思い出せないこの感じ……。ああ、もやもやする！

次回用メモ:

